

くすり一口メモ

吸入用 β_2 刺激薬の特徴

サルメテロール（商品名：セレベント）が発売されたことにより、喘息治療における吸入用 β_2 刺激薬の使用方法に変化が生じてきました。今回は、今まで発作時に使用されていた主な吸入用 β_2 刺激薬と新しく発売されましたサルメテロールの特徴について比較してみました。

商品名	メブチン	サルタノール	ベロテック	セレベント	
成分名	プロカテロール	サルブタモール	フェノテロール	サルメテロール	
用法 用量	成人	1回2吸入 最大：1日4回 原則として8吸入まで	1回2吸入 最大：1日4回まで (3時間あける) 原則として8吸入まで	通常1回2吸入 効果不十分のときは さらに1～2吸入 それ以上の追加吸入は 6時間以上あける 最大：1日4回まで	1回50 μ g 1日2回 朝、就寝前吸入 最大：1回50 μ g 1日2回まで
	小児	1回1吸入 最大：1日4回 原則として4吸入まで	1回1吸入 最大：1日4回まで (3時間あける) 原則として4吸入まで	他の吸入用 β_2 刺激薬が 無効な場合に限る	1回25 μ g 1日2回 朝、就寝前に吸入 最大：1回50 μ g 1日2回まで
作用持続	8～10時間	4～5時間	6～8時間	12時間以上	
作用発現	吸入後5分程度			吸入後15～20分程度	
使用目的	発作治療薬 (リリーバー)			長期管理薬 (コントローラー)	

表からもわかるように吸入用 β_2 刺激薬は作用時間により、短時間作用型と長時間作用型に区別されます。短時間作用型は発作治療薬（リリーバー）として、長時間作用型は長期管理薬（コントローラー）として使用されます。短時間作用型は即効性がありますが、過剰に使用することで耐性が生じ、喘息を悪化させる恐れがあります。長時間作用型は即効性はありませんが、短時間作用型に比べ、長期連用による耐性が起こりにくく、副作用の発現が少ないことが特徴です。

喘息予防・管理国際指針（GINA2002）では成人の長期管理薬として、中等症持続型および重症持続型の喘息における吸入ステロイド薬と長時間作用型吸入用 β_2 刺激薬の併用が推奨されています。

【参考文献】各種添付文書/今日の治療薬2005/喘息予防・管理国際指針/緊急安全性情報
(鹿児島市医師会病院薬剤部 柿本 智広)